

# 花祭の里の 盆踊り唄

山本 正名

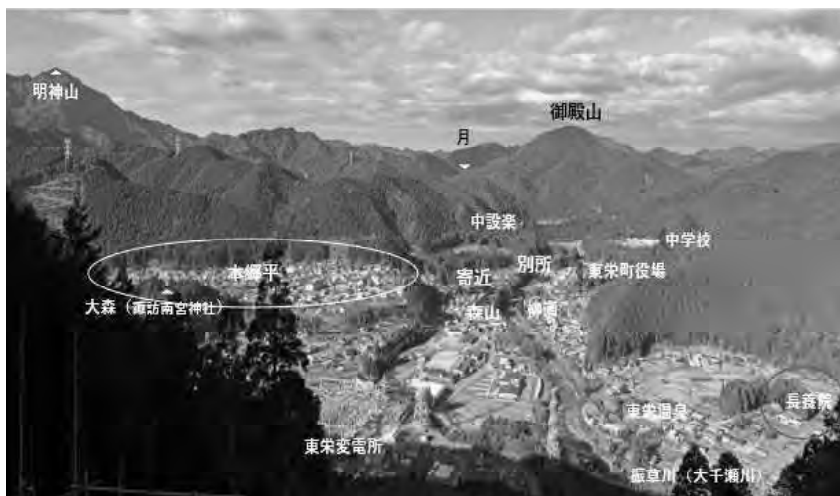


写真 I



奥三河・南信地方の地図

写真 II



東栄町の中心地と長養院 (右端)

写真III



東栄町下田にある長養院

写真IV



長養院の全景

東栄町教育委員会発行

(昭和59年〔1984〕)

『東栄のお宮お寺』35頁から引用)

写真V



長養院本堂横にある長養院の盆唄由緒案内板

右後ろに「罔象」（みずは）と彫られた碑は、導水路完成の記念碑。

「罔象」は水の神を意味する（『下川邑誌』より）。

写真VI



「木曾の盆踊り」の図（『信濃奇勝録』〔1834年刊〕より）

写真VII



新野の盆踊り（作画:須山計一解説:諸田盛男『信濃の祭』中の須山計一作成の絵）

おさま甚句じんくは  
 どこからはよた  
 三州振草  
 下田から  
 おさま甚句は  
 どこまではよた  
 幾山越えて  
 新野まで

(二番は筆者作)

## 目次

発行に寄せて（長養院住職）	6 頁
はじめに	7 頁
第一章 盆踊り「おさま甚句」の源流	10 頁
第二章 盆踊りの普及	24 頁
第三章 新地新野への展開	32 頁
第四章 外国人が初めて見た盆踊り	57 頁
第五章 新たな時代へ	63 頁
追補 新野を訪ねて（風景写真集）	72 頁
注釈	78 頁
おわりに	90 頁

## 発刊に寄せて

長養院は由緒ある寺であると言われていましたが、これまで明確な資料がなく、歴史をたどることも困難でありました。

今回の資料には長養院開山 光国舜玉大和尚の足跡、また盆踊りとの関連・歴史がわかりやすくまとめられているものであります。

昔は今のように娯楽もなく、楽しみとなるものがお祭りであったと推測できます。盆踊りもそのひとつで、盛大に行われていました。

現在では、山村部の人口減少、高齢化、娯楽の普及等の理由で、花祭りや盆踊りの存続が難しくなっています。

しかし、歴史として後世に伝えていくことも、大切なことであります。

この資料には、長養院の歴史、盆踊りの歴史がわかりやすく記されていて、後世に残したい一冊であります。

よく調べいただき、深く感謝申し上げます。

令和八年（二〇二六）一月一五日

長養院住職 岡村勝佳